



メルボルン日本人学校

2025 年 年間報告

住所：6 Ellington Street, Caulfield South, VIC 3162

校長：小橋幸代

電話：03 9528 1978

Email：melko@jsm.vic.edu.au

Website：www.jsm.vic.edu.au

I 展望

メルボルン日本人学校は、2025年度に創立40周年を迎えた。前身は、昭和43年9月に創立されたメルボルン補習校であった。昭和61年4月にビクトリア州教育省より、「特別学校」として認可され、カリキュラムについては、オーストラリアの教育内容に合わせることなく、日本のカリキュラムに沿って授業することが認められた。同5月に現在の場所（6 Ellington Street, Caulfield South VIC 3162）において、児童生徒数96名でスタートした。設立母体のメルボルン商工会議所、学校運営理事会や保護者会の皆様をはじめとして、オーストラリア政府・ビクトリア州政府・日本国政府・海外子女教育振興財団などの多くの方々に支えられて今日を迎えるに至っている。

本校では従来から、国際社会に生きる日本人としての自覚と誇りをもって、世界に羽ばたく人材の育成を目指した学習活動の実践と、日本の学習指導要領に基づく教育課程の編成を行い、「令和の日本型学校教育」による「確かな学力」とオーストラリアの地の利を生かした活動により「豊かな心」の育成に努めている。また、メルボルンで唯一日本と同等の教育を受けることができる学校として、その特色を踏まえた上で現地の環境を生かして知徳体のバランスの取れた子供の育成に職員一同全力で取り組んでいる。

児童生徒数は、40名ほどの小規模校だが、近い将来1学年10名前後の学級規模の児童生徒数にしたいと考えている。そして、メルボルン日本人学校を卒業した生徒たちが、将来、日本とオーストラリアの架け橋として日豪の友好関係をさらに深めていくことを期待している。

II 概要

本校は、メルボルン周辺に在住する日本人子女及び、今後日本において日本の教育を受ける予定のある児童生徒に対して、オーストラリアの現地校としての枠組みの中で、日本国憲法・教育基本法・学校教育法の基本概念を把握し、学習指導要領に準じた教育計画・教育活動を実践している。

<学校経営方針>

人権尊重の精神を基調とし、知・徳・体のバランスのとれた児童・生徒の育成をめざす。日々の授業の充実を学校経営の根底とし、一人一人の子供を大切にしたい教育を推進する。そして、グローバル人材育成の拠点としての在外教育施設の役割を果たしながら、保護者・地域から信頼される学校づくりを推進する。

<学校教育目標>

「自ら学び、心豊かでたくましい子供の育成」
～日本人としての自覚をもち、国際社会を生き抜く子供の育成～

<めざす子供像>

- ＊ 進んで学ぶ子
- ＊ 心豊かで思いやりのある子
- ＊ たくましい子、やりぬく子

<指導の重点>

教科指導＝「確かな学力」を身に付ける

- ・ 少人数であることを生かした個々の児童生徒へのきめ細かい指導や、ICTの活用や教材・教具、学習形態、発問等を工夫し、わかる喜び・学ぶ楽しさを実感させる授業づくりを行う。
- ・ 「学習課題とまとめ」のある授業を実施する。
- ・ 主体的、対話的で深い学びの視点に基づく授業改善を図る。
- ・ 言語活動を充実するための学習指導の工夫・改善を図り、思考力・判断力・表現力を育む。
- ・ 学習規律、学習集団、学習習慣をつくる指導を学年に応じて段階的に進める。

英語教育＝言語環境を生かし、高いコミュニケーション能力を身に付ける

- ・ 小学部中学年における英語では、EALの補充学習や独自の英語活動を行い、英語の基礎的な力を育てる。

- ・ 小学部高学年における英語では、中学校英語の導入として配慮し、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく育てる。
- ・ 中学校英語は学習指導要領の内容を指導するとともに言語環境を生かし発展的内容の指導を図る。
- ・ 学校の特長を生かし、小学部・中学部全学年2分割でEAL教員による指導を行い、4技能を積極的に使える英語力を身に付ける。
- ・ 現地校との交流学习を通して、コミュニケーション能力の向上と国際的な視野を広げる。

道徳教育＝自己を見つめる力と互いを思いやる心を育てる

- ・ 道徳の時間では、発達段階や指導の内容、資料の特質に応じた多様な学習指導を行う。
- ・ 行事や活動で育てたい道徳性を明確にし、道徳の時間と関連付けた指導をする。
- ・ あいさつ、時間、言葉遣いを大切に、互いを思いやる心を醸成する。

読書活動の推進＝豊かな感性を育む

- ・ 年間を通した朝の読書活動を実施し、児童生徒の読書意欲を高める。また、言語に関心をもち、ものの見方や考え方・感じ方を広げ深める読書活動を通して豊かな感性を育てる。

総合的な学習の時間＝探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する力を育てる

- ・ 小中学校のつながりを踏まえ、各教科等との関連を明確にして、課題意識が連続する指導計画を工夫する。
- ・ 海外の特性を生かした体験活動と言語活動を意図的・計画的に設定し、探究的な学習を行う。

特別活動＝「認め合い・高め合う集団」と「よりよい生活をつくり出す力」を育てる

- ・ 自治的・自発的な活動の運営の仕方や仲間との関わり合い方を段階的に指導する。
- ・ 学級目標に示す、育てたい集団の姿を明確にし、年間を通して意図的・計画的に学級経営をする。
- ・ 好ましい人間関係、社会性の育成にかかわる力を、実践を通して高めるための体験活動や生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢の子供たちからなる集団による活動を意図的に行う。

情報教育＝発達段階に応じて、情報化社会における知識や活用能力を育てる

- ・ 情報の収集や選択、発信などの情報活用能力を育てる。
- ・ 情報機器に潜む危機管理意識を育て、正しい情報管理と活用についての知識を養う。

進路指導＝自己の生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる

- ・ 小中学校の連携を図り、児童生徒の発達段階に応じた指導計画を工夫する。
- ・ 望ましい勤労観・職業観を育てる体験活動を工夫するとともに事前事後の指導を大切にする。
- ・ 一人一人が自分のよさを自覚し、夢や希望をもって主体的な進路選択ができるような情報提供や学習の工夫をする。

生徒指導＝共感的な理解に徹し、自己指導能力を育てる

- ・ 生命と人権を大切にする観点から、常に児童生徒の姿や心の変化をとらえるとともに、教育相談などを意図的・計画的に実施する。
- ・ 一人一人の児童生徒が自己存在感を実感できる場を設定し、自己指導能力を育成する。
- ・ 規範、マナー、情報モラル等について、一貫した姿勢と体制で指導する。

自国文化理解、現地文化理解＝国際社会を生き抜く日本人を育てる

- ・ 日本の伝統・文化のよさに気付きその価値や意義を理解させるとともに、オーストラリアの伝統・文化のよさにも気付かせ、日本や自分の暮らしている国に誇りと愛着をもたせる。
- ・ 国際社会に生きる日本人としての自覚と誇りを養い、多様な文化を尊重できる態度や資質を育てる。
- ・ 在外教育施設であることを生かした現地交流を進める。（交流学习、校外学習、社会見学、宿泊学習、芸能鑑賞等）

健康安全教育＝運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる

- ・ 児童生徒の生活や健康状態、安全意識等の実態と発達段階を踏まえた指導計画を工夫する。
- ・ 新体力テストを実施し、個々の実態に応じた体力向上を図る。

- ・健康で安全な生活に関する具体的な指導内容を明確にし、各教科等の特質を生かした効果的な指導を行うとともに、個に応じた指導を工夫する。
- ・発達段階に応じて、自ら身を守り、安全を確保する能力を身に付けさせる。
- ・オーストラリアにおける健康、安全に関する研修を行うとともに、管理・指導を徹底し、事件・事故の未然防止に万全を期す。

特別支援教育＝一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる

- ・特別支援教育担当を中心に全校職員で指導する体制をつくる。
- ・ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりを実践する。
- ・一人一人異なる特性に配慮し、個に応じた支援の在り方について校内研修を計画的に実施する。
- ・保護者との連携を密にし、共に育てる意識と支援体制をつくる。

人権教育＝だれもが大切にされる学校づくりを推進する

- ・教科等指導、生徒指導、学級経営など学校教育活動全体を通じて、人権尊重の精神に立った学校づくりを進める。
- ・児童生徒間の望ましい人間関係を形成し、人権尊重の意識と実践力を養う学習活動を展開する。

開かれた学校づくり＝保護者と連携し、開かれた学校づくりを推進する

- ・保護者との相互理解に努め、学校と家庭の連携を図る。
- ・HP、Instagram、学校・学部・学級だより等により、学校の基本姿勢や教育活動を積極的に発信する。
- ・授業参観やメル校デー、ジャパンフェスティバルなどの学校行事を通じて教育活動を公開し、本校における「令和の日本型学校教育」のよさや日本人学校独自の教育活動を発信する。

Ⅲ 校長からの年間報告

2024年4月の着任以来、「児童生徒数の確保」「学校と保護者との円滑なコミュニケーション」「メルボルン日本人学校だからこそできる教育のさらなる実践」が本校の大きな課題であるという認識をもち、「行ってよかった 行かせてよかった」と児童生徒・保護者・教職員など本校に関わる人すべてに思っていただけの学校づくりを目指してさまざまな取組を行った。まずは、本校の魅力をより多くの方に知っていただくために、HPやInstagram、パンフレットを一新し、情報の発信に力を入れた。文部科学省や海外子女教育振興財団を通しての積極的な情報発信も行った。また、学年委員会を中心とした保護者と連携を取り、日々のコミュニケーションを大切にするとともに、創立40周年をお祝いする会での保護者ブースや運動会、月1回の保護者読み聞かせなどで、保護者の協力を得ることができた。

児童生徒は義務教育の期間に、自分の将来に向けたさまざまな力を身に付けている。将来の夢をもたせ、その実現へのきっかけや土台を作ってあげることも学校教育の大切な役割である。本校では日本人学校だからこそできる教育の実践を通して、児童生徒が自分自身をみつめ、将来の夢をもつことのできる機会を取り入れようと、外部人材を活用したキャリア教育を多数実施した。理事長による「生き方講座」、JALによる「航空教室」と「空港見学」、JAXAによる「宇宙教室」、地元のプロ選手による「サッカー教室」や「テニス教室」などのさまざまな職種や立場の方の話を聞いたり体験したりするキャリア教育の場は、児童生徒の将来の道の選択肢の一つとなったと思われる。

さらに、オーストラリアにあるということを生かし、将来国際社会で活躍できる人材の育成を目指した充実した英語教育や国際理解教育も実施している。ネイティブスピーカー教員によるEALや日本人教員による英語授業によって、英語によるコミュニケーション力を養い、現地校との交流学習によって、お互いの文化を教え合ったり、授業で身に付けた英語を実際に使ったりして、実際にコミュニケーションを図る機会をもつことができた。プレップからG3の農場体験、G4のサイエンスワークス見学、G5のヤクルト工場見学、G6の州議事堂見学、中学部のソフトバンク職業体験学習などを実施し、体験することによってこの地をより深く知ることもできた。雄大な大自然の中で実施した宿泊学習では、G4以上の学年が様々なアクティビティーに参加し、子供たち同士の友情が深まった。大きな学校行事としては、メル校デーと運動会があるが、これらの行事を経験することで、協力することの大切さを学び、児童生徒同士の絆が強まった。来年度は4学期制を導入する。本校のさらなる魅力化を図り、より多くの方々に選ばれる学校となるような実践を進めていきたいと考えている。一人でも多くの方が本校を選び、「行ってよかった 行かせてよかった」と思ってくれることを願っている。

Ⅳ 教職員

1. 職員構成

	教諭	一般職	先住民民族職員
人数	15名	3名	0名
フルタイム換算	14.2名	2.7名	0名

2. 教員最終学歴

学位・資格等	人数
博士号	0人
修士号	3人
学士号	12人
Diploma	0人
Certificate IV	0人
Certificate III	0人
無資格	0人

3. 教職員出勤率 98.9%

4. 教職員定着率 72.2% (派遣教員5名帰国含む)

5. 教員の研修

研修日数 16日

(1) 主題研修

今年度の研究テーマを「国際社会で活躍できる人材を目指して」と設定し、これからの国際社会を生き抜く子供を育成するために、多文化多民族が共生するメルボルンという地においてどのような取組ができるのかを考えた。それぞれの学年や教科で工夫された授業実践が提案され、深まりのある研修ができた。

子供たちが将来、真の国際人として活躍するためには、違いを認め、お互いを尊重し合い、誰とでも共生し協働できる力をもつことが重要である。その上で、自分の価値観をしっかりと持ち、広い意味でのコミュニケーション能力を身に付けていくことで、これからの国際社会で活躍できる人材となるのではと考える。そんな人材を育成するきっかけとなる題材が、本校の子供たちの周りにはあふれている。さまざまなバックグラウンドをもち、個性豊かな子供たちに対して、本年度の研究主題に基づいてさまざまな工夫した授業が展開できたことは、本年度の研修の成果であり、来年度も引き続き取り組んでいきたい。

教員の授業力向上を目指し、グループ（低・中・高・中学部）代表授業研究会、一人一授業を行った。また本年度も近隣の補習授業校2校にも授業研究会参加を呼びかけ、授業研究交流を図った。

(2) 職能研修

- ・ アナフィラキシー研修、ファーストエイド講習を受けるなど緊急時における対応ができる体制づくりを引き続き行った。
- ・ 教員と保護者間のやりとりをよりスムーズに円滑にするために、School Stream 研修を実施した。
- ・ 特別支援教育の深化充実のため、校内で特別支援教育について研修を行った。
- ・ 年度当初には、学校のポリシー研修を行い、教職員がポリシーを再確認した。
- ・ 本校のこれからの課題と対策、魅力化について、教職員がそれぞれの考えを出し合い、来年度に向けた方向性を考えた。

V 児童生徒の出席率

Prep	92.7%
G1	93.9%
G2	86.9%
G3	97.5%
G4	93.0%
G5	89.1%
G6	96.9%
G7	94.7%
G8	83.3%
G9	52.7%
全体	89.8%

出欠の確認は一日に2回行われ、欠席理由の記録・欠席者のフォローアップは担任と事務によって行われている。

VI NAPLAN

(National Assessment Program Literacy and Numeracy)

1. 試験内容

オーストラリアの小中学校で実施されている学力診断テスト。英語の読み書きと計算能力を診断するもので、出題と解答は英語で行われる。(オンライン方式)

2. 試験科目

Reading, Writing, Conversations of Language (Spelling, Grammar, Punctuation), Numeracy

3. 実施日

3月中旬(年1回、2日間)

4. 試験結果

2025年

- ・ ナプランテストの前には、英語とEALの授業で試験についての指導をしているので、児童生徒は問題の指示は理解できている。
- ・ 本校の児童生徒はNumeracyの分野においては平均を超えているが、ReadingやSpellingに課題があった。

2024年

- ・ オンライン形式のテストに徐々に慣れてきているが、テスト結果は英語での出題ということから課題が多く見られた。
- ・ なお、NAPLANに向けて児童生徒の負担にならないような取組を考えていく。また、事前準備はEALの教員と協力しながら指導していく。

VII 学校評価

令和7年末に学校評価を行った。それぞれの項目の評価は下記のとおりである。

	＜子供に関すること＞	そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらかと言 えばそう思わ ない	そう思わない	わからない
1	子供は、学校へ行くのを楽しみにしている。	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2	子供は、授業がわかりやすいと言っている。	58.3%	33.3%	0.0%	0.0%	8.4%
3	子供は、あいさつや正しい言葉づかいが身についている。	58.3%	33.3%	8.4%	0.0%	0.0%
4	子供は、友だちと仲良く協力して学校生活を送っている。	87.5%	12.5%	0.0%	5.0%	0.0%
5	子供は、家庭での学習習慣を身に付けている。	41.7%	45.8%	8.3%	4.2%	0.0%

	＜学校に関すること＞	そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらかと言 えばそう思わ ない	そう思わない	わからない
1	学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2	学校は、日々の授業を工夫し、主体的に学ぶ力を身に付けさせようとしている。	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3	学校は、思いやりのある、豊かな心をもった子供を育てようとしている。	70.0%	25.0%	0.0%	0.0%	5.0%
4	学校は、強い意志でやりぬくたくましい子供を育てようとしている。	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5	学校は、読書活動の充実や図書室の環境整備に努めている。	75.0%	20.0%	0.0%	0.0%	5.0%
6	学校は、英語教育や国際交流学習など、日本人学校として特色ある教育活動に取り組んでいる。	65.0%	30.0%	0.0%	0.0%	5.0%
7	学校は、便りやHP、参観懇談などで教育活動の様子をわかりやすく知らせている。	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8	教員は、子供の能力や努力を適切・公平に評価している。	60.0%	30.0%	0.0%	0.0%	10.0%
9	教員は、子供とよく話をし、理解している。	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10	教員は、一人ひとりを大切にした学級づくりに取り組んでいる。	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%

Financial Performance and Position

Operation Statement for the year end 31 December 2025

<u>Expenses</u>	<u>2025</u>	<u>2024</u>
Employee benefits expenses	720,407	718,508
Insurance expenses	50,348	52,173
Office expenses	29,118	28,050
Professional expenses	19,388	33,434
Repair & maintenance expenses	25,333	26,768
School activities expense	26,995	26,009
Student expenses	46,254	38,679
Sundry expenses	11,942	19,983
Depreciation expenses	127,518	143,691
Loss	0	0
Total Operating Expenditure	<u>1,057,303</u>	<u>1,087,295</u>

Revenue

	<u>2025</u>	<u>2024</u>
Tuition fees	285,901	309,774
Receipts for Activities	265	603
Enrolment fees	12,800	12,000
Subsidy – Japanese Govn't	61,895	83,344
Subsidy – Zaidan	7,042	3,312
Interest	107,183	115,127
Other Income	7,718	4,059
Grants from State Govn't	40,859	47,568
Grants from Aust Govn't	386,633	406,395
Other State Govn't Subsidy	1,518	1,523
Total Operating Revenue	<u>911,814</u>	<u>983,705</u>
	<u>-145,489</u>	<u>-103,590</u>

Statement of Financial Position as at 31 December, 2025

<u>Current Assets</u>	<u>2025</u>	<u>2024</u>
Petty Cash/General Account	164,120	137,637
Term Deposit	2,268,529	2,367,494
Prepayments	66,050	73,603
Interest and other receivable	42,611	72,432
Total Current Assets	<u>2,541,310</u>	<u>2,651,166</u>

Non-Current Assets

Building at cost	1,365,776	1,417,427
Additions	45,725	40,869
Loss of disposal	0	0
Less Acc depreciation	-93,451	-92,520
	<u>1,318,050</u>	<u>1,365,776</u>

Furniture & fittings at cost	67,043	80,392
Additions	42,464	5,258
Disposal	0	0
Less Acc depreciation	-16,707	-18,607
	<u>92,800</u>	<u>67,043</u>

Educational equipment at cost	37,084	51,505
Additions	0	11,887
Disposal	0	0
Less Acc depreciation	-10,988	-26,308
	<u>26,096</u>	<u>37,084</u>

Library books at cost	19,486	18,811
Additions	773	4,002
Disposal	0	0
Less Acc depreciation	-3,443	-3,327
	<u>16,816</u>	<u>19,486</u>

Freehold land at cost	<u>376,215</u>	<u>376,215</u>
-----------------------	----------------	----------------

Right of use assets	14,646	14,646
Less Acc depreciation	-6,835	-3,906
	<u>7,811</u>	<u>10,740</u>

Total Non-Current Assets	<u>1,837,788</u>	<u>1,876,344</u>
Total	<u>4,379,098</u>	<u>4,527,510</u>

Current Liabilities

	<u>2025</u>	<u>2024</u>
Accrued expenses	72,081	76,760
School Bonds	17,500	20,000
Prov for Long Svc Leave	108,331	97,411
Payment in Advance	4,008	13,929
GST Payable	499	0
Lease Liability	2,968	2,741
Total Current Liabilities	<u>205,387</u>	<u>210,841</u>

Non-Current Liabilities

Prov for Long Svc Leave	14,428	8,928
Lease Liability	5,507	8,476
Total Non-Current Liabilities	<u>19,935</u>	<u>17,404</u>
Total Liabilities	<u>225,322</u>	<u>228,245</u>

Net Assets

Accumulated surplus	4,299,265	4,402,855
Operating surplus	-145,489	-103,590
Total	<u>4,153,776</u>	<u>4,299,265</u>